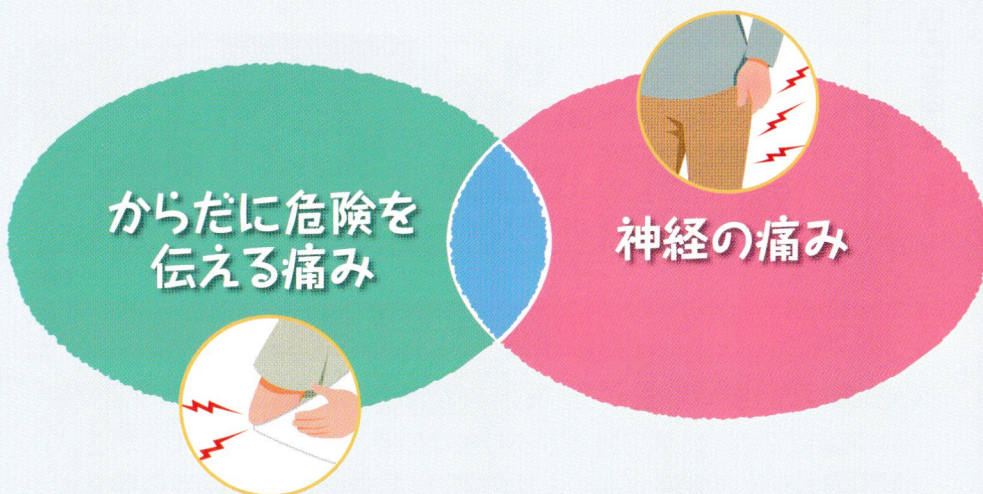


## 痛みについて～痛みの種類～

「痛み」は、ケガや打撲などのからだに危険を伝える痛みと、神経の痛みの、大きく2つに分けることができます。



### ① からだに危険を伝える痛みしんがいじゅうようせいとうつう(侵害受容性疼痛)

切り傷・火傷・打撲・骨折などのケガをするとその部分に痛みを起こす物質が発生します。この物質が末梢神経にある「侵害受容器」という部分を刺激することで痛みを感じるため、「侵害受容性疼痛」とよばれています。

一部の頭痛や歯痛、関節リウマチや変形性関節症の痛みなどもこれに該当します。侵害受容性疼痛は重くズーンとした痛み方が特徴です。この痛みは、ほとんどの場合、急性で、一般的な鎮痛薬が効果を示します。

### ② 神経の痛みしんけいしょうがいせいとうつう(神経障害性疼痛)

何らかの原因によって神経が傷つくことで、神経が過敏になり、痛みの信号が出過ぎてしまうことがあります。このような痛みを「神経障害性疼痛」といいます。

帯状疱疹後の長引く痛みや、糖尿病性神経障害に伴う痛み、坐骨神経痛などが代表的です。

神経障害性疼痛は、一般的な鎮痛薬が効果を示しにくい痛みです。神経障害性疼痛は、しびれのような、電気が走るような、焼けるような、ビリッとくる痛み方が特徴です。ケガや炎症がない、あるいは治ったにもかかわらず痛みが続く場合は、「神経障害性疼痛」である可能性があります。

